

資料6 可変性

整備方針

恵まれた環境や限りある資源を活かし、育み、永く使うことができる庁舎

- 将来の市民ニーズの変化や組織改編等に対応できる、可変性の高い庁舎とします。

(1) 可変性を持たせた整備手法

- 将来の市民ニーズの変化や組織改編に対応したレイアウト変更を容易にするため、構造躯体（スケルトン）と間仕切りや設備（インフィル）を分けて施工するスケルトン・インフィルを採用します。
- ユニバーサルレイアウトを前提としたオフィスレイアウトとすることで、行政ニーズの変化による組織改編や業務の拡大・縮小などに柔軟に対応します。
- レイアウト変更を想定したエリア単位で制御可能な電気・空調設備を整備します。
- 職員数や来庁者の減少に伴い余剰床が生じた場合を想定し、交流・共創スペースへの転用、部分的な貸し出し、他の用途への変更などに対応できる汎用性の高い計画とします。

